

9/9/11 20時1分

7月に行われた市会議員選挙で3期目の当選をさせていただきました、日本共産党の我如古一郎です。「命が大切にされる社会」を目指し、市民が主人公の立場でがんばります。

はじめに、所見を述べさせていただきます。今回の衆議院選挙の結果は、自公政権に国民がノーの審判を下しました。政権を担うことになる民主党が、数の力に奢ることなく、国民の声に謙虚に耳を傾けた、政権運営を行ってほしいと思います。

争点の一つになった学費値下げ、負担軽減の国民の声は大きな変化を作り出し、民主党の高校授業料の無償化、学費を値上げしてきた、自民党までもが給付型奨学金の創設を公約にしました。

9月8日に発表されたOECD(経済協力開発機構)の国内総生産に占める教育機関への公的支出の割合が、比較できる28ヶ国で27位の最低レベルにあることが報道され、教育の負担軽減は当たり前の要求であることが証明されました。

高校から大学卒業までにかかる費用は平均して1023万円で、年収の34%に登ります。学費が払えず退学に追い込まれる、教科書が買えない、アルバイトを3つかけもちで学費を稼いでいる、など学生は深刻な状況です。教育を受けることは、子ども達の権利であり、その権利はその家庭の貧富で左右されてはならない、と思います。

学生がお金の心配なく学べる社会をつくることは、英知と技術を身につけ、社会に大きく貢献し、日本の発展に結びつくことです。政治的立場の違いを超えて、その実現に政治が動く時だと思います。

では、発言通告に従い個人質問を行います。

はじめに

1、識名園友遊会について質問します。

私の地元、真地にある、世界遺産識名園で行われています「識名園友遊会」は、教育委員会が主催して平成11年に立ち上げました。回を重ね、今年は11回目を迎えます。文化財の保護と地域文化の継承・発展、地域愛を育み、青少年の健全育成と地域の活性化という崇高な理念と目的を掲げて、毎年多くの青少年や地域の皆さんの舞台発表がにぎやかに行われております。

しかし、近年補助金がなくなり、負担が大きくなり、各自治会長は真和志自治会長連絡協議会が主催者のような運営のあり方に大きな不満が続出しているようであります。私は、この「友遊会」が真和志地域の大きなイベントとしてさらに発展していくことを願う立場から、以下質問いたします。

- ① この行事を開始した経緯と意義を伺います。
- ② 真和志自治会長連絡協議会から、どのような改善要求がだされているか。教育委員会は、どう対応するのか。見解を求めます。

次に

2、教育行政について質問します。

那覇市の小中学校が2学期制に移行してから、3年余が経過したが、当局が目指した教師や児童生徒のゆとりや学力の向上など目的は達成されたのか。

- ① 学校2学期制についての評価と問題点を問うものです。
- ② 全県の3学期制と2学期制の比率と数。他の自治体が2学期制に移行していない理由はなんでしょうか。

次に

3、公園行政について質問します。

- ① 老朽危険遊具の取替えの推進状況と安全な遊具の設置予算の増額を求めます
- ② 「安全な公園」の定義はなにか。新都心「ガジュマル公園」の「ハブに注意」という標示は必要なのか。見解を求めます。
- ③ 長田1丁目の長田北児童公園は石ころが多くて危険との声があるが、改善を求めます。

最後に

4、団地行政について質問します。

- ① 市営団地にはほとんど網戸がついておりません。網戸をつけない理由は何でしょうか。沖縄において窓に網戸は必需品ではないのか。見解を伺います。
- ② 高齢者世帯を中心に、床や畳・流し台などを無償で修理・取替えをして欲しいとの要求にこたえるべきと思うが見解を問う

以上で終わりますが、残り時間は自席にて行います。

団地行政について

網戸の問題を今回取り上げたのは、複数の市民の声があるからです。古い団地には網戸をつけるレールすらついておりません。それは建設当時のアルミサッシの技術や建築基準の標準ではなかったという事情はわかりました。

団地の居住者は確実に高齢化し、年金暮らしでぎりぎりの生活の家庭も少なくありません。これから、設置しようとするれば数万円かかります。秋に近づくとはいえ沖縄はまだまだクーラーを使う期間が続きます。

せっかく涼しい風が吹いていても虫や蚊がはいるために窓を開けられない生活はクーラーを使うことにつながります。

網戸の話からいきなり地球温暖化の問題に行きますが、電気を使わないエコの観点からも必要ではないのかと思います。

低炭素社会を目指し、那覇市が持続できる循環型社会を目指すのであれば、これからは網戸の設置は標準化すべき問題ではないでしょうか。

現在建設中の団地は、低層階には標準でつけるべきと要望しておきたいと思いません。

団地に30年も住めば畳も床も流し台もぼろぼろになり修繕が必要です。しかし、低収入の年金暮らしにとって、それができない方が多くいます。

部長は公費負担があるといいますが、畳表は自己負担です。1枚数千円で6畳間では4万円程度かかります。流し台も扉は自己負担です。日々の生活でぎりぎりの年金暮らしの住民にとって、結局はがまんするということになります。

快適な居住環境を市民に提供するのが、公営住宅法の目的であると思います。そのような市民を助けていただきたいのです。

十分な予算でなくても、制度を作る必要があると思います。再答弁を求めます。

公園行政について再質問します

「安全な公園」という定義をわざわざお聞きしたのは理由があります。新都心のガジュマル公園は、すでに都市化した地域にあり、公園を作ってから何年も経っています。ガジュマルの大木が大きな木陰を作って、すばらしい公園です。せっかく良い公園をつくっても、ハブがいるかもしれないという公園に、子供たちが遊ぶでしょうか。

現実にハブがいるのか徹底的に調査し、100%いないと言えるような確信を持って、安全な公園を提供するのが、行政の仕事ではないのか、と思うのです。

長田北公園も同じことが言えます。質問では石ころだらけといましたが、正確には大きな石が地中にあり、表土が雨で流れて石だらけの地面というのが実状です。おそらく公園を建設した業者が土を節約するため、石を混ぜたのではないかと推測できます。

土をまたかぶせれば解決できるものではありません。

老朽危険遊具は撤去だけして、あとに新設はしない、ハブに注意と書いた公園で子どもたちが遊ばないのは当然です。

安全な公園を市民に提供するために、予算はかかりますが、重要な仕事であります。部長の認識を再度お聞きしたいと思います。

識名園友遊会について再質問します

教育長の考えを伺いたいと思います。

首里文化祭(琉球王朝祭り)とは趣旨も規模も違いますので単純な比較はできませんが、一方は41自治会が参加して補助金は357万円です。友遊会は真和志地域の42自治会が参加して、NPO助成金が25万円しかありません。真和志はいつも後回しです。

真和志自治会長連絡協議会は、友遊会の趣旨には大いに賛成だと思います。しかし、財政負担が大きすぎる上に、自治会長自ら駐車場係りや受付、寄付金集めなどをやらなくてはならず、運営の負担も大変だと聞いています。

その負担を軽減するために、今度は「できる範囲の協力という形」にしようとしています。これは「友遊会」を尻すぼみにして廃止しようとしているのではないかと、気になるところです。

教育委員会が文化庁にかけあって、実現したイベントを廃止しないためにも、主体を明確に教育委員会にして、最低限の予算をつけて、運営は地域自治会の協力を得る形で発展させることを表明すべきと思いますが、教育長はどのような展望をお持ちなのでしょう。

学校2学期制について

私は、まだ 2 学期制の導入を評価しておりませんが、実施してどのように学校が変わったのか。検証を続けることが重要と思います。

課題の一つに、全県的な実施ではないために、全県的な対外試合、大会などが 3 学期制を前提に組まれているため、試験の日程と重なっていたり、連続したハードな日程になるなど、中学の生徒にしわ寄せが来ています。そのような課題をどうするのか。見解を伺います。

当局が評価する割には、沖縄県全体の 4 割しか 2 学期制に移行していないのはなぜなのか。課題の解消につねに努力を怠らず、児童生徒に不利益にならないようにして頂きたいと、強く指摘をして、私の個人質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。